

総合診療科専門研修プログラム

プログラム【大町病院 信州大学 総合診療プログラム】の特色

はじめに

ひとを診る医師になろう。

医師として「ひとを診る」時、その背後に患者の価値観や家族、地域など様々なものが歯車のように絡み合っており、そのひとが形作られていることが見えてきます。様々なセッティングの中で、新しい「生」から、来るべき「死」を迎えるその時まで、ひとの生は連綿と続きます。ひとを診ることのできる臨床家となるためには、生死を見据え、個々の幸せを中心においた医療の研修・実践が欠かせません。

それは、地域医療を担う医師のみに限らず、領域別専門科へ進む医師も、そのキャリア形成の上で必須な過程です。

どうして専門研修で総合診療科なの？

初期研修ではあくまでも基礎中の基礎を築いたに過ぎません。高齢化、医学の発展とともに複雑化する医療のニーズに対応し、トータルに患者を診て、責任ある医療を提供するために、必要なスキルはなんなのでしょうか？

疾病の診断と治療という単純な図式ではなく、患者をひとりの人間として多角的に、かつ家族や生活背景までも考慮しながら、その患者にとっての最適解を模索していく医療のありかたは、それぞれの臓器や領域を漏れなく研修したからといって身につくものではありません。多くのひとが健康上の不安や課題、特性を抱えながら生きるこの時代だからこそ、総合診療専門医が先導的な役割を果たし、人々のために地域の医療を、プライマリ・ケアを強化しなくてはなりません。



総合診療科特任教授 関口健二

私の、僕のなりたい専門、もう決まってるんですけど！？

医療は役割分担とその連携で成り立っています。高度医療、臓器あるいは疾病別の専門医療ももちろん大事です。そして、皆さんが領域別の専門医を志向しているとしても、目の前の患者を守るために、最適な医療を提供するために、**将来の専門領域の如何に関わらず必要な診療技術**があります。特に長野県のような地理的特性を有する地域では、一般的に見られる疾患、症状の患者を全人的に管理するための幅広い知識と技能、疾病構造の変化や多様化する診療の場のニーズに責任もって応えることのできる診療能力は必須です。

総合診療は「**全ての診療科をローテートすればできる**」ようなものでは残念ながらありません。**包括的統合アプローチ**を学ぶことは、領域別専門家となった後も、問題を抱えた患者が目の前に現れたとき、「**当科的に問題なし**」を超えた、患者にとって最適な医療や介護の方針を包括的に解決できる医師となるための研修なのです。

総合的に診れる医者にはなりたいけど、3年間はちょっと長いわ...

総合診療科の目指す教育は多様で、それを可能にするために、3つの教育様式を用意しています。

- ① 主プログラムは、地域で二次医療の要として、全人的管理を責任もって実践できる、専門医としての総合診療医を養成するための3年間(または4年間)のトレーニング「**総合診療専門研修プログラム**」です。
- ② キャリアゴールは領域別専門家であるが、ジェネラルマインドを持って全人的医療を提供できる医師となるための礎作りをするためのトレーニングとして「**病院総合診療研修プログラム**」を用意しています。研修期間は1年間を基本としていますが、そのほかの短期研修も受け入れています(条件は応相談)。
- ③ 診断困難症例の最後の砦である信州大学病院総合診療科で、診断医学および後進教育に特化した「**信大総診短期研修プログラム**」もあります。学生や初期研修医と共に、診断力と教育力を短期間で集中的に鍛えることができます(条件は応相談)。

※それぞれの興味、キャリアゴールに合わせて、柔軟に対応します。研修を希望する人も、キャリア形成を決めかねている人も、気軽に相談してください。若き医師のより良いキャリア形成は、私たち総合診療科の願いでもあります。

専門研修の魅力 「家庭医療と老年科、両方やるなら大町病院」

シームレスな地域医療の提供

二次医療の要である総合診療を必要としている地域の要請に応えるために、規模の異なる二つの地域病院を主な研修施設として、多彩な医療現場(ER型救急、病院総合診療、診療所診療、訪問診療、施設管理)を経験します。2人の家庭医療専門医とともに、医療セッティングにとらわれない、シームレスな地域医療を学ぶことができます。

医療セッティングを問わない、バリエーション豊かな症例群

基幹病院である市立大町総合病院は、地域唯一の総合病院であり、急性期から緩和、在宅診療に至るまで、バリエーション豊かな症例を経験できるのみならず、米国内科専門医2名をはじめ、経験豊かでスタンダードな診療技術を有する指導医陣の教育のもと、複雑な症例に対しても、主治医として主体的な介入が可能です。

包括的地域ケアの実践

「医療とは本来その医療圏の医療機関や関連機関全体で提供されるものであること」の視点を常に持ち、地域の医療を支える他専門職との連携を密に行い、地域の保健・介護・福祉といった分野でもリーダーシップを発揮し、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供できる能力の獲得が可能です。

充実した教育体制

2名の家庭医療専門医を要し、信州大学医学部附属病院総合診療科スタッフも含め、指導医層が厚く、毎日の教育カンファレンスで確実に総合的な臨床力を養うことができます。また、年12回を超える(過去実績)有名講師陣を招聘し、田舎にいながらでもトップレベルの教育を受けることができます。また、アカデミックな活動に対する信州大学のバックアップも充実しています。

各人の興味・能力に合わせたサブスペシャリティ

信州大学医学部附属病院をはじめ各地域病院の協力の元、各専門科研修、心エコー／心不全研修、内視鏡研修、CKD／透析研修など、地域の必要とする専門能力の獲得が可能です(4年間プログラムに限る)。

地域病院を軸とした地域医療教育



研修カリキュラム【大町病院信州大学総合診療プログラム】

研修期間 3年間または4年間
 (病院総合診療研修@市立大町総合病院は1年間を原則)
 (信大総診研修@信州大学医学部附属病院は3か月間～)

プログラム構成病院の概要

【必修】	総合診療科	市立大町総合病院 総合診療科 国保健康保険小谷村診療所
	内科	安曇野赤十字病院、相澤病院、神戸市立医療センター中央市民病院、飯塚病院、東京医療センターのいずれか
	救急部	安曇野赤十字病院、相澤病院、神戸市立医療センター中央市民病院、飯塚病院、東京医療センターのいずれか
	小児科	市立大町総合病院 小児科
	継続外来診療	市立大町総合病院 総合診療科
【選択】	整形外科、泌尿器科、脳神経外科、皮膚科	市立大町総合病院
	診断学	信州大学医学部附属病院 総合診療科
	総合診療科	神戸市立医療センター中央市民病院、飯塚病院、東京都立多摩総合医療センター

研修予定

3年間コースの1例

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1年目	総合診療Ⅱ(大町)			小児科(大町)
2年目	救急(他研修病院)	内科(大町または他研修病院)		
3年目	内科(大町)	総合診療Ⅰ(診療所)		

研修の流れ

・本研修プログラムは、卒後年数を問いません。研修期間は3(または4)年間です。(病院総合診療研修は1年間)

・2年次修了時

- ✓総合診療専門研修Ⅱ(病棟診療・救急診療中心)6-12ヶ月間、小児科 3ヶ月間、救急科 3ヶ月間を修了します
- ✓年齢・性別・疾患を問わず、頻度の高い症候・疾患に対する標準的アプローチ、健康問題に対して、病気の背景や人間関係を理解して行なう全人的アプローチができる診療技能の修得を目標とします
- ✓EBMに基づいて、当該患者へ適用していく診療技能を修得します

・3年次修了時

- ✓医療セッティング(病院、診療所、訪問診療など)に応じた診療技術のレベルを高めていくとともに、総合診療専門研修 I(外来診療・在宅医療中心)を修了することで、地域のニーズを理解して、予防医学や福祉にかかわる地域の問題に継続的に貢献することができる、地域のリーダーとしての能力修得を目標とします
- ✓地域医師会との活動を通じて、地域の実地医家と交流することで、地域包括ケアへ参画し自らの診療を支えるネットワーク作りを学びます
- ✓総合診療の様々な理論やモデル、組織運営マネジメントを学び、所属施設のリーダーとしての能力修得を目指します
- ✓カンファレンスでのファシリテーターとしての役割、公的な学会や研究会への積極的な参加や企画運営、指導医としての効果的な教育、に取り組むことも求められます

・専門研修における研究

- ✓専攻医は学術活動に携わる必要があり、学術大会等での発表(筆頭に限る)及び論文発表(共同著者を含む)を行うことを原則としています
- ✓信州大学医学部附属病院総合診療科と連携しながら、臨床研究に携わる機会を提供されま
す。研究発表についても経験ある指導医からの支援が提供されます

研修の週間計画

市立大町総合病院ローテーション 週間予定の一例

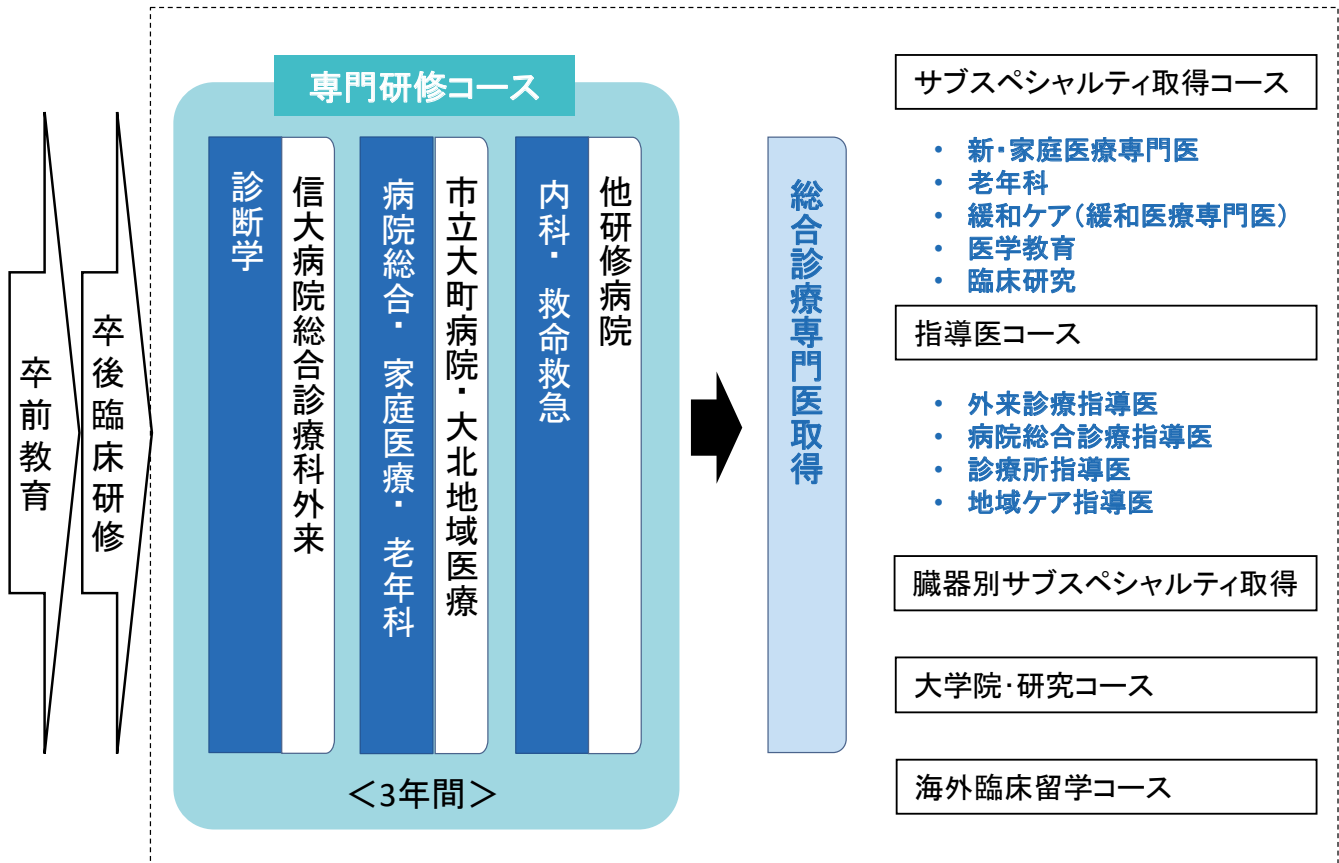
	朝	午前	昼	午後
月	症例検討会	病棟業務	教育回診 家庭医療勉強会	病棟業務
火	新入院 カンファレンス	病棟総回診	画像カンファ(月1回) ジャーナルクラブ	内科外科合同カンファ
水	症例検討会	再診外来	コアレクチャー	多職種カンファレンス 病棟業務
木	全科救急勉強会	病棟業務	外来カンファレンス	訪問診療
金	週間振り返り カンファレンス	総診(初診)外来	救急対応勉強会	病棟業務 振り返り・まとめ
土		各種勉強会やセミナーあり(月1回)		

市立大町総合病院ローテーション 一日の予定

	月曜日～金曜日	土曜日
7:30-8:00	プレ回診	
8:05-8:50	勉強会／症例検討会／カンファ	病棟回診、診察 (第2土曜日) 院内行事
9:00-12:30	救急総診外来／病棟回診	
12:30-13:30	各種勉強会(ランチョン)	
13:30-17:00	病棟業務、手技、訪問診療、家族へ説明	
17:15	終業、時に院内行事あり	

サブスペシャリティ・学位取得の道筋

総合診療専門研修コース(3年間) 募集(人数2名/年)
 病院総合診療研修コース(1年間) 募集(若干名)
 信大総診短期研修コース(3か月間～) 募集(各期1名)
 コース責任者: 家庭医療科 金子一明



取得できる専門医、資格など

3年間の総合診療専門研修プログラムの後、総合診療専門医の受験資格を取得できます。

※ 4年間の研修プログラムの後、新・家庭医療専門医の受験資格を取得できます。

将来の就職先など

当科研修終了後の進路には、以下のような選択肢があります。

- A) 地域の研修病院や診療所で、指導医として後進の教育を行いながら、地域医療に従事する。
- B) 総合医としての研鑽を積むため、卒前卒業教育のエキスパートになるため、臨床研究を実践するため
 或いは老年内科・緩和ケアの研鑽を積むために、信大病院総合診療科スタッフとなる。
- C) 専門医のトレーニングに移行する。
- D) 臨床疫学を学ぶコースに進学する。
- E) 大学院に進学する。
- F) 海外臨床留学 など

研修終了後にそれぞれの興味や希望に応じて、自分自身が満足できるキャリアパスを踏んでいくことができるよう最大限の支援をします。

国内留学・海外留学

総合診療専門研修プログラム(3年間)の期間中に、実施することはできません。

4年間プログラムを選択した場合、3ヶ月間は場所・機関を問わない選択研修ができます。

自分の興味ある領域、将来のキャリアに向けて必要とされる領域について研修できるよう、最大限の援助をします。

Q&A

Q: 他科・他施設で専門研修コース在籍していますが、総合診療科での研修をすることはできますか？

A: 協力研修であれば、当科での研修歴をカウントすることができます。最低3ヶ月間以上の期間で、研修場所は市立大町総合病院総合診療科または信州大学医学部附属病院総合診療科となります。本人と所属研修プログラムまたは所属医療機関と調整をして決定します。

Q: 一定期間離職していて、現場復帰にためらいもあるのですが、復職のための研修もできますか？

A: 歓迎します。身分・雇用形態は、その研修期間や本人のレディネスによって異なりますが、調整をして決定します。研修者の興味ある領域、将来のキャリアに向けて必要とされる領域について研修できるよう、最大限の援助をします。

Q: 出産、育児、留学などのライフイベントにより、プログラムを中断・再開できますか？

A: 研修開始登録し、研修を行っていれば、中断したとしても、それまでの研修歴はカウントされます。研修期間には上限はありません。研修内容も、ライフワークバランスのとれた研修が可能です。



連絡先

信州大学医学部附属病院 総合診療科 (事務 才竹)

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話:0263-37-3591 ■FAX:0263-37-3215

■E-mail : soshin@shinshu-u.ac.jp

■U R L : <http://www.shinshu-generalmedicine.jp>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [総合診療科]



検索

